

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>



新年のご挨拶

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会
会 長 原田 実生

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、常日頃より、当協会の事業運営にご理解ご協力を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大・縮小を繰り返し、日々の生活においても大きな変革を求められた年でもありました。秋以降、その拡大もようやく落ち着きを見せ、経済活動も徐々に再開してきたところではありますが、第6波の来襲も懸念される等予断を許さない状況にあります。しかしながら、その一方で、昭和39年以来2度目の東京オリンピックが「スポーツには世界と未来を変える力がある」をテーマに開催され、日本が世界の関心を集めました。また、木材利用の転換点となった公共建築物等木材利用促進法が改正され、木材利用促進の対象が低層の公共建築物等から中高層を含む「建築物一般」に拡大されるなど我が国の木造建築が新たなステージを迎える年となりました。

住宅産業・木材産業界では、一昨年に大きく落ち込んだ住宅建築着工が春先から回復を見せる一方で、世界的な木材需要の高まりと新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うサプライチェーンの混乱等から木材の需給ひっ迫や価格高騰が生じ、我が国の木材需給に波及、第3次ウッドショックと呼ばれる状況となりました。春先の輸入製材品や集成材の品不足に始まって、夏以降は合板の需給ひっ迫に拡大する中で、秋の住宅建築の繁忙期を迎えました。

このような中で、プレカット工場は住宅ビルダーからの発注を受け、必要となる国産材や外材の住宅資材を要となって確保して住宅建築を支えてきたところです。木材供給と住宅建築とをつなぐ接点にあり、住宅資材の需給安定に重要な役割を担うプレカット工場の位置づけが再認識された年でもあったのではないのでしょうか。

当協会では、このようなニーズに応えていくため、会員の皆様に対する技術支援として、プレカットCAD技術者の研修と認定登録を行っています。プレカット部材を発注するビルダーは、必ずしもCAD設計に必要な十分な情報を揃えて発注される方ばかりではないことから、工場側で発注情報の不備や誤りに気付いて加工ミスを防いだり、改善提案をしていくことが益々重要となっています。このため、業務に必要不可欠な知識や技術を体系的に学ぶ場を設け、職員育成の支援を行っているところです。また、業務支援として、プレカット材に10年間の瑕疵保証責任保険を付保するプレカット部材瑕疵保証事業にも取り組んでいるところであり、このような取組を通じて会員各位の事業のご支援ができるよう努めているところです。

本年が皆様方にとって素晴らしい一年となりますようにご祈念申し上げますとともに、皆様方の当協会の取組に対する一層のご理解ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

協会会員工場基礎調査結果について（第4回）

— 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：令和2年12月 調査対象工場数：33工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合 計
総生産量 (単位：100坪)	50、87、70	170、135、 162	244、290、 208、201、 244	484、397、 360、480、 310、412、 300、401、 420、330、 343	719、754、 939、1,451、 1,000、550、 5,252、557、 1,100、1,852、 961	21,233
平 均	69	156	237	385	1,375	643
(前年平均)	(51)	(129)	(245)	(390)	(1,817)	(950)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	47、1、0	0、0、0	27、0、0、 201、0	66、238、0、 0、0、0、0、0、 0、0、343	431、27、128、 0、0、0、3,196、 0、100、0、269	5,074
平均	16	0	46	59	377	154
(前年平均)	(30)	(1)	(0)	(44)	(447)	(213)
AQ製品生産比率	23%	0%	19%	15%	27%	24%
(前年AQ製品 生産比)	(58%)	(1%)	(0%)	(11%)	(25%)	(22%)

【調査結果の分析】

- 1 会員33工場を対象とした調査によると、令和2年の総生産量の平均は、643百坪と対前年比で約68%と大きく減少しました。これは令和2年の新設住宅着工戸数が対前年比で約10%減少したこと等によるものと考えられます。特に、総生産量5万坪以上の比較的規模の大きな工場において、令和2年は対前年比で76%に減少する等、新設住宅着工戸数の減少の影響をより大きく受けたことが考えられます。これに対して、1万坪以下の規模の小さな工場では、新設住宅着工戸数の傾向とはかかわりなく地域の着実な需要と結びついて堅調な事業が行われているものと見られます。
- 2 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は24%で前年に比べて2ポイントの上昇に転じました。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、今回は2万坪から5万坪未満のクラスのプレカット工場において、AQ製品の生産が上昇していることが見て取れます。

プレカット業況調査 (令和3年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率57%)

設 問	回答比率 (%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	53	41	6	+47	+33
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	9	47	44	-35	+17
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	全体平均: 6,500円(前回比+200円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	9	85	6	+3	+20
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	88	12	-12	+7
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	3	44	53	-50	-80
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	6	50	44	-38	-50
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	41	47	12	+29	+3
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	12	50	38	-26	-10

*DI=(1)の%- (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

*前回調査: 令和3年8月

【調査結果の分析】

- 受注額の今月のDIは+47、5月期・8月期に続いて連続で好転する一方で、悪化したとの回答が概ね半減しています。しかしながら、3ヶ月後の予測は前回調査時が+17であったものが、-35に悪化する見通しとなっています。
- 加工単価は、平均総加工単価が6,500円にアップし、製品加工単価のDIも若干好転する一方で、3ヶ月後は-12に悪化するとの厳しい予測となっています。
- 資材入手状況についての今月のDIは-50と前回よりも改善したものの、依然として厳しい状況となっています。特に合板の入手が厳しい状況にあると言われています。また、3ヶ月後の予測DIについても-38と現状よりも若干改善するものの、相変わらず入手困難な状況が続くものと予測されています。
- 3ヵ月前と比べた収益についてはDIが+29に好転しており、好調な受注が収益の改善につながっているようです。しかしながら、3ヶ月後の収益予測は前回調査時と変わらず悪化するとの見通しでDIも-26と予測されています。

令和3年度木材利用優良施設コンクールの受賞作品

木材利用推進中央協議会では、10月29日に令和3年度「木材利用推進全国会議」を開催し、この中で木材利用優良施設コンクールの表彰が行われました。このコンクールは、平成5年度から農林水産省の後援の下、木材の利用推進等に寄与すると認められた優良な施設に対して、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞などの表彰を実施しているもので、今年度は13施設が受賞されました。

今回、栄えある内閣総理大臣賞を受賞されたのは、岡山県英田郡西栗倉村の「あわくら会館」です。この建物は、庁舎・議会・図書館に文化ホールやラウンジを付加した複合施設で、地上2階建て、延べ床面積3,461m²の木造（軸組工法）及び鉄筋コンクリート造の建物です。また、地域の川上から川下までの事業者が協働して、工期の分割や木材供給スケジュールに合わせた工程の設定などを行って、建物に使用する木材の村産材率97%を実現しました。

また、農林水産大臣賞を受賞されたのは、宮城県仙台市の「高惣（たかそう）木工ビル」です。東日本大震災から10年という節目の年に被災県からの調達を掲げ、全国どこでも製造できる小断面の一般的な製材品を活用した「束ね柱」や「合掌型合わせ梁」などを用いた耐火部材を開発・使用した地上7階建て、延べ床面積1,131m²、我が国初めての7階建て木造ビル（軸組工法）です。

なお、詳細は木材利用推進中央協議会のHPに掲載されています。

■内閣総理大臣賞■

あわくら会館
(岡山県英田郡西栗倉村)



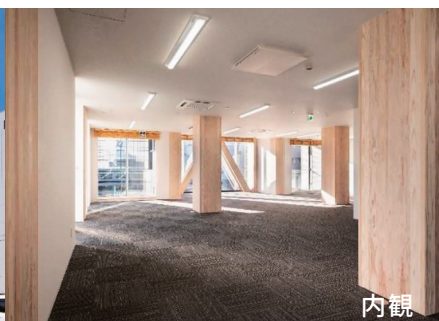
外観



内観



外観



内観

■農林水産大臣賞■

高惣（たかそう）木工ビル
(宮城県仙台市)

令和3年度プレカットCAD技術者研修のご応募のお礼

今年度のプレカットCAD技術者研修の受講生を11月19日から募集を始めたところ、たくさんの方からご応募をいただき、2・3級コースにつきましては2週間ほどで募集定員に達しました。ご応募ありがとうございました。

また、募集を締め切った後にご応募いただいた方には大変申し訳ありませんでした。来年度も開催したいと考えていますので、その時は改めてご応募をお願いします。

お待ちしております。